

李鋼哲 INAF 所長の韓国での活動報告

李 鋼哲

2023.2.21

去る2月8日～13日、韓国ソウルに出張し、研究交流活動をしてきましたので、簡略に報告申し上げます。

8日、金沢から特急電車に乗り、中部国際空港経由で仁川空港に向かいました。中部空港はまだカラガラで、海外旅行者はまだ少なく、航空機の中も半分以上席が空いていました。13日帰国の時はほぼ満席でした。

1. INAF と東北アジア共同体文化財団との相互交流協定（MOU）締結式

9日の午後5:00時に、郭炳憲 INAF 事務局長と二人で、東北アジア共同体文化財団の事務所を訪れ、そこで待機していた先方の役員5名（元大学の教授または総長だったり、元開発銀行の総裁だったり、素晴らしい経歴の持ち主）と、現場で合流した金泳鎬（キム・ヨンホ） INAF 最高顧問と挨拶を交わした後、早速交流協定締結の儀式を行いました。

李承律（イ・スンユル）理事長と李鋼哲所長がそれぞれご挨拶と各自研究所の紹介、交流協定締結までの経緯について説明しました。その後約1時間参加者の自己紹介および今まで取り組んできた東北アジアに関する仕事について懇談し、最近の東北アジアの情勢についても議論しました。また今後二つの組織がどのような共同課題を発掘し交流していくかについても議論しました。

金泳鎬先生は先方財団の顧問でもあり、両組織の顧問として、東北アジアの平和構築に向けての重要な論点についてお話をしてくれました。その中で強調していたのは、100年以上前の安重根義士が旅順刑務所で執筆した未完成の『東洋平和論』についてであり、その主な内容は日中韓3カ国が主導して「東洋平和会議」を設け、徐々に東南アジアも加入させるという構想であり、東洋のジャン・モネとして評価できると述べました。

協定式が終わった後は近くの中韓料理屋で懇親会がありました。

詳細については韓国の『東北亜新聞』により早速報道されているので韓国語ができる方は、下記のHPにアクセスしてご覧ください。

東北アジア共同体文化財団のHP:

http://www.nacsi.or.kr/HyAdmin/view.php?&bbs_id=bo01&page=&doc_num=104

『東北亜新聞』のHP

<http://www.dbanews.com/news/articleView.html?idxno=45139>



李承律 (イ・スンユル) 理事長と李鋼哲所長



参加者全員の集合写真



李承律（イ・スンユル）理事長が挨拶



金泳鎬（キム・ヨンホ）最高顧問のご挨拶と討論

2. 国際会議：東北アジア地域 SDGs の履行と協力可能性の模索

翌日10日には、ソウルのヨイドにある国会議事堂セミナー室で、表記の国際会議が開催されました。SD コリア・フォーラム（理事長・ユ・キョンヒ）が主催し、日本の環日本海経済研究所（ERINA）、モンゴルの安保戦略研究所（MINAS）が共催団体として参加しました。

本会議は3つのセッションに分けて、午前中と午後に渡って開催しました。

主催者のご挨拶（3団体）と韓国国会議員2名のご挨拶に始まり、本会議が始まりました。

韓国政府統一部、グローバル・イノベーション・センター韓国事務所などが後援団体として参加し、UNESCAP の専門家も参加しました。

東北アジア諸国の SDGs の履行実態と今後協力の可能性に関して、日本、韓国、朝鮮、中国、モンゴル、ロシア6カ国の専門家がそれぞれ発表し、ディスカッションを行いました。

私李鋼哲は「DPRK の SDGs 履行実態と協力の可能性」について報告しました。

韓国語での報道内容は下記の『東北亜新聞』のHPにアクセスしてご覧ください。

<http://www.dbanews.com/news/articleView.html?idxno=45128>



SD コリア・フォーラム（理事長・ユ・キョンヒ）のご挨拶



3. 三江フォーラムでの講演とフォーラム

12日午後には、ソウルの大林洞（デリムドング）にある外国人住民支援センターのセミナー室で、2023年第1回目の三江フォーラム（韓中両国の交流のための民間団体）が開催されました。テーマは、「東北アジア地域の平和と繁栄における朝鮮族の役割」で私が講演し、先方の3名の討論者が討論を行いました。

今度のフォーラムは、私のソウル訪問に際して、『東北亜新聞』李東烈社長のご招待を受けて開催されました。三江フォーラムの韓国側代表郭ジェソク氏が司会を、同フォーラム中国側代表張キョンユル氏が開会挨拶し、その後私が約40分間講演しました。それに対して約1時間で3名討論者の熱烈な討論、そしてフロアからの討論も行われました。フォーラムには約50名参加しました。

同フォーラムは、三江フォーラムと INAF の共催という形になり、在韓国同胞文人協会、在韓国同胞文学研究会、皆一緒フォーラムが共催団体、東北亜新聞、同胞世界新聞、中国同胞タウン新聞、韓中フォーカス新聞、ソウル外国人住民支援センターが後援団体でありました。

フォーラムの最後には、INAF 所長と李東烈東北亜新聞社長との間で、相互交流協定（MOU）締結式が行われました。INAF 郭事務局長も同席しました。

このフォーラムに先立って、在韓国同胞文人協会（作家団体）の新年報告会が開催されました。

フォーラム後は懇親会が催され、美味しい韓国料理と朝鮮族料理を堪能しました。

詳細は『東北亜新聞』HPにアクセスしてご覧ください。（以上）

<http://www.cbnews.com/news/articleView.html?idxno=45134>

『世界同胞新聞』HPに映像資料と討論資料が掲載されています。

<https://www.ekw.co.kr/news/articleView.html?idxno=11144>



張キョンユル氏が開会挨拶



・李鋼哲・INAF 所長が講演



討論する李東烈（イ・ドンヨル）東北亜新聞社長



討論する鄭仁甲（ジョン・インカップ）・元中国清華大学教授



討論するソウル大学国際大学院院生韓承軒（ハン チェンシュアン）



INAF 所長と李東烈東北亜新聞社長との間で、相互交流協定 (MOU) 締結式동



会場全体